

緑島の新顔たち…ヤマガラ・ウグイス・キビタキ

「緑島(りょくとう)」とは、ビルや道路などが広がる市街地に点在する緑地のこと。東京でいえば明治神宮、大阪でいえば大阪城公園のような場所です。まるで鉛色の海に浮かぶ緑の島のように存在するところからの命名。実際、緑島の少ない大阪では、渡りの時期には、大阪城公園に、孤島に集まるように、いろいろな小鳥たちが立ち寄っていきます。

東京都心部には、神宮のほか、皇居、自然教育園、六義園など、大小10以上の緑島があり、東京の市街地環境の特徴となっています。その多くは照葉樹が主体で、一年中深緑色のこんもりした緑陰となっています。



写真1 増えているヤマガラ

そんな緑島に、ちょっとした変化がつつぎ見られています。1970年代には冬鳥だったヒヨドリが留鳥化し、80年代には森の住人・コゲラが定着し、90年代には猛禽類のオオタカが常駐するようになり、2000年代になるとエナガが新住人となりました。そして2010年代のいまは、明治神宮と皇居でしか知られていなかったヤマガラ〔写真1〕が、代々木公園や新宿御苑、自然教育園などと繁殖分布を広げています。また、平地部では冬鳥のウグイス〔写真2〕が、ここ数年来、新宿御苑でずっと鳴き続けています。現在までの調査では雄1羽の単独と思われています。そして、明治神宮では夏鳥・キビタキ〔写真3〕の美しいさえずりが、複数か所で響いています。

いずれもまだ少数派ですが、1年だけの話ではないのがポイントです。初登場から約30年たった明治神宮のコゲラは、今では出現率第4位(99.6%)・優占率第8位(4.4%)と、鳥相を構成する重要な種となっています。また、緑の少なかった下町では、2000年になって清澄庭園で定着するようになったこと



写真3 夏鳥・キビタキが登場

が、当会がまとめた『東京の野鳥たち～月例探鳥会7

か所・20年間の記録～』の同園の記録からわかりました。

ヤマガラ・ウグイス・キビタキが今後緑島でどのような変貌をとるかはまだ未知数です。しっかり観察し、その進入・定着・繁殖の過程を研究していきましょう。

〔写真提供：川内 博〕



写真2 新宿御苑にウグイスが

【観察記録・写真募集】 メール・Fax・郵送をお願いします。電話は対応していません。

1. 東京23区内で、ヤマガラが定着・繁殖している事例
2. 新宿御苑での生息個体は1羽だけか否か。幼鳥などを見かけなかったか
3. 東京地方で、キビタキが新たに定着している事例

【送り先】 (メール)office@yacho-tokyo.org (Fax)03-5273-5142

(郵送)〒160-0022 新宿区新宿5-18-16 新宿伊藤ビル3階 日本野鳥の会東京・研究部あて